

2018年度（平成30年度） 福山市立服部小学校 研究推進計画

1 研究主題

学校教育目標

自ら学び、思いやりのあるたくましい服部っ子の育成

めざす子ども像

自ら学ぶ子ども・自他を大切にする子ども・最後までやりぬこうとする子ども

研究主題

「学びあい・認めあい・励ましあい」のある授業の創造
～ペア学習・グループ学習を活用した対話的で深い学びの実践～

2 研究主題設定の理由

本校は小規模校であるため、一人一人がクラスや全校での集まりの中で発表する機会が多い。しかし、自分が伝えたいことを的確に話すことや、学年に応じた話し合いスキルの定着が不十分であったため、ペア学習・グループ学習で深い学びにならない現状があった。そこで昨年度は、『「学びあい・認めあい・励ましあい」のある授業の創造～ペア学習・グループ学習の効果的な活用をとおして～』を研究主題として実践を進めてきた。その結果、話し方を意識して自分の考えを的確に述べることや、意欲的に自分の考えを伝えようとするようになってきた。しかし、友達の意見と自分の意見をつないで発言したり、ペア学習・グループ学習をすることで自分の考えを深めたりすることは不十分であった。

そこで、今年度は、ペア学習・グループ学習を効果的に活用することで、お互いの考えを理解し合い、練り合い、再構築して思考を深めるような、対話的で深い学びの実践を研究の重点として、本研究の2年目の実践を進めていくことにした。

3 研究仮説

話し合いスキルを身につけ、ペア学習・グループ学習を単元の適切な場面で効果的に取り入れれば、自分の考えを伝える力が付き、他の児童から学び共に問題を解決していこうとする意欲が向上するであろう。その際、思考ツールを活用して考えを練り合い、再構築することにより思考が深まり、「学びあい・認めあい・励ましあい」のある授業となるだろう。

4 研究内容

① 主体的に学び始め、学びが深まるような課題づくりを行い、自己の学び（成長）が実感できる授業を行う。

- ・児童が「調べてみたい、考えてみたい」と思い、主体的な学習活動が始まるような学習課題（めあて）を設定する。（「まとめ」と整合した学習課題を設定する。）
- ・学習課題との出会わせ方を工夫する。
- ・「めあて」と整合した「まとめ」を自分の力で記述させる。（その時間に何を理解したかを評価するため。）全体では、児童から出てきた言葉を用いてまとめる。

② 互いの考えや意見を交流し、高め合うことができる授業を行う。

- ・「話し方名人」「聞き方名人」を意識した指導を行い、落ち着いた学級づくり・授業づくりを行う。
- ・話合いのスキルを学年に応じて習得させ、ペア学習・グループ学習にいかす。
- ・思考ツールを学年に応じて段階的に取り入れることで、思考を可視化し、自分やグループの考えを明確にしたり整理させたりする。
- ・ペア学習・グループ学習を意図的に取り入れることで、児童の深い学びにつなげる。どの場面で、どの思考ツールを用いてペア学習・グループ学習を仕組むのかを、単元計画に入れる。

③ 児童につけたい力を明確にした授業を行う。

- ・単元を通して身につけさせたい21世紀型“スキル&倫理観”の具体を明確にして単元づくりを行う。
- ・カリキュラムマップを活用し、他教科との関連を図りながら、「考え力」「未来力」「つながり力」を育成していく。

5 仮説検証の視点

① 児童の思考を深めるためのペア学習・グループ学習になっていたか。

（対話的であったか。思考ツールは効果的であったか。）

② 児童が主体的に問うような課題（めあて）が設定され、整合性のあるまとめにすることができたか。

③ 身につけさせたい21世紀型“スキル&倫理観”の具体的な姿を育成する手立てが見られたか。

6 検証の方法

① 児童の意識調査（学期末アンケート）

② 児童の振り返り

※研究授業の後に児童に聞いてみる。

「今日の授業は面白かったですか。どんなところが面白かったですか。」

③ 教師による見取り